

関私教協緊急シンポジウム

教員養成制度改革への対応を考えるー私立大学からの提言ー

開催ご案内

日時：2011年5月8日（日）13:00～17:00（受付 12:30～）

会場：帝京平成大学（池袋キャンパス）本館6館605教室

主催：関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会

後援：全国私立大学教職課程研究連絡協議会

テーマ：教員養成制度改革への対応を考えるー私立大学からの提言ー

プログラム：開会挨拶 13:00～13:05 澤田 稔氏（上智大学）

第1部 特別講演 13:05～14:05

「今後の教員養成のあり方ー中央教育審議会の審議経過をふまえてー」

安彦忠彦氏（早稲田大学、中教審教員養成部会副会長）

第2部 調査報告 14:05～14:30

「免許制度に関する調査報告」

関口昌秀氏（神奈川大学）

休憩 14:30～14:40

第3部 シンポジウム 14:40～17:00

「持続可能な教員養成制度の形成に向けて」

1. 教員免許更新制部会からの提言 安井一郎氏（獨協大学）

2. 大学院における教科専門科目の意義 町田健一氏（国際基督教大学）

3. 大学院における長期実習の現状と課題 森山賢一氏（玉川大学）

4. 持続可能な養成制度の条件 田子 健氏（日本女子体育大学）

指定討論者 安彦忠彦氏（早稲田大学、中教審教員養成部会副会長）

司会：澤田 稔氏（上智大学）

主旨：大学院修士課程修了を基礎資格とする、長期実習を義務づける、基礎免許・一般免許・専門免許に免許種を変更する等を含む教員養成制度改革の検討が、いよいよ次期中央教育審議会で本格的に審議・決定されようとしています。これまで公開されている情報によれば、現在検討されている改革案は、私立大学の立場からすれば容易には受け入れがたいものであると考えます。日本の教員養成において重要な役割を果たしてきた私立大学として、この問題を見過ごすことはできません。今後も私立大学が教員養成を担っていくためには、私立大学の立場を踏まえた制度設計が求められます。

そこで、関私教協教員免許更新制部会では、私立大学の立場から対案をまとめ、提示する必要があると考え、本シンポジウムを企画することとしました。本シンポジウムでは、教員養成制度改革の進行状況の報告、全私教協教員免許更新制検討委員会が実施したアンケート調査の報告に加え、当部会が検討してきた教員養成制度改革案を提示し、ご意見をいただきたいと考えました。本シンポジウムでの議論を踏まえ、関私教協、全私教協でさらに検討していただき、私立大学の立場を踏まえた制度改革に結びつけたいと考えています。多くの会員校にご参加いただき、活発な議論が展開されることを期待しております。

参加申込：事前の申込手続きは不要です。

参加費：無 料

アクセス、学内地図については、帝京平成大学（池袋キャンパス）のホームページを参照してください。

◆ 5月7日（土）関私教協研究大会のご案内を合わせてご覧下さい。

◆ 本シンポジウムに関するお問い合わせ先：町田健一（国際基督教大学）

machida@icu.ac.jp 0422-33-3267（研究室）